

近所のせたがや地域風景資産

「せたがや地域風景資産」って知ってますか？今年 3 月 15 日発行の区報に第 3 回めに選定された 20 か所が紹介されて私も初めて知りました。第 1 回目に 36 か所、第 2 回目に 30 か所が選定されていて今回の 20 か所を含め、合計 86 か所が選定されたこととなります。「風景資産」というだけあって、対象が建物やランドマーク的なものばかりではなく広場全体とかやすらぐ情景とかも選ばれる対象になっているのが楽しいです。今回は、玉川界限にある風景資産をご紹介します！

石井戸（大蔵）の愛宕山 大蔵 4 丁目 第 3 回選定



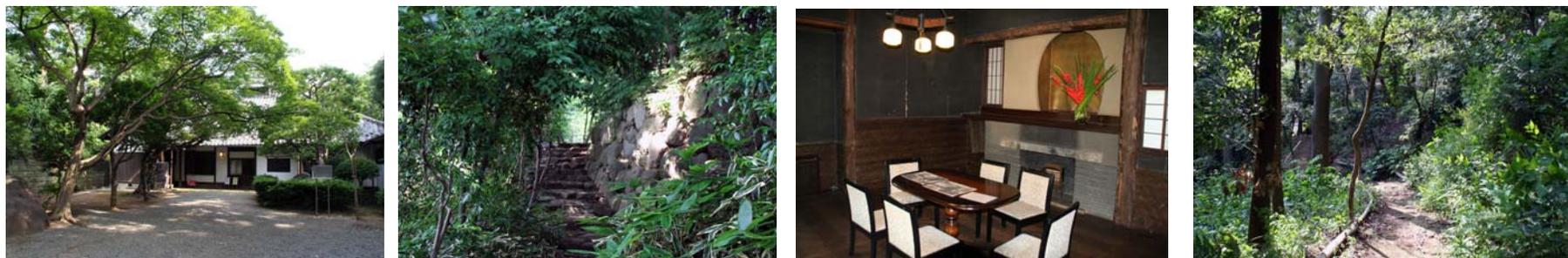
大蔵の愛宕山です。実は、ここで良いのかちょっと自信が無かったりしますが、この山だと思います。昔、ここは石井戸といわれていました。近くの大蔵団地の所は崖になっていて、その崖から湧き水がでていました。石から水が出ていく事、そしてこの地域にすんでいた石井氏の名前、両方兼ね合わせて石井戸と呼ばれたそうです。

大蔵の四季があふれ出す妙法寺の境内 大蔵 5 丁目 第 3 回選定



妙法寺は約 350 年前に創建されました。その頃宇奈根に常光寺というお寺があり、その隣村であったこの地域の人々が、常光寺に頼みこの寺をつくってもらったといわれています。通称、おおくら大仏妙法寺といい、正式名は東光山妙法寺といひます。宗派は日蓮宗です。発起人は大蔵本村の村長さんだった安藤家。その安藤家の旧住居は世田谷の文化財に指定されています。大佛様は平成 6 年秋のお彼岸に完成。高さ 8 メートル、重さ 8 トンのブロンズ製です。この大佛様は、光背に四菩薩をはいた久遠実成の本佛お釈迦様を現しています。台座は回るようになっており、朝と夕方では顔の向きが変わります。知ってました？

旧小坂家別邸と崖線庭園 瀬田 4 丁目 第 3 回選定



旧小坂家住宅は、信濃銀行取締役、信濃毎日新聞社長で、後に貴族院議員、枢密顧問官を務めた小坂順造（1881 年～ 1960 年）が、昭和 12 年に別邸として建てた屋敷で、戦時中は日本画家の横山大観も空襲を避けるため、樹林地の中にあつた茶室に一時期移り住んでいました。小坂家別邸の敷地は国分寺崖線上の縁辺部にあり、敷地の約半分は斜面地となっています。国分寺崖線の姿をよく残し、湧水も見られ、自然と建物が一体となった緑地空間を形成しています。入館は無料で、お願いすれば係りの方が屋敷内を説明してくれます。一見の価値ありですよ。

* てくたく刀サッチ #12 「旧京西小学校跡」玉川台 7-5 *

明治 12 年（1879）12 月、この場所に京西小学校が創立されました。瀬田と用賀の村境で、両方の村の子供たちが通うのに便利だと、みんなが相談して決めました。はじめ、先生は 2 人、児童は 66 名でした。学校の名前は、用賀村の貿易商鈴木虎之助さんの知り合いで後の総理大臣、伊藤博文が、東京の西にできた学校ということで「京西」と命名しました。その後、明治、大正、昭和と児童数も年ごとに増え、校舎も 2 階建てへと建て替えが行われましたが、昭和 14 年 2 月、今の用賀 4 丁目の新校地に新校舎が完成し、懐かしい旧校舎に別れを告げ、全校児童と職員の手による三日がかりの引越しが行われたそうです。



用賀プロムナード 用賀4丁目・上用賀5丁目 第1回選定



用賀駅北口から砧公園、世田谷美術館まで続いている遊歩道です。敷き詰められた様々なデザインの淡路瓦には、百人一首の和歌が刻まれており「いらか道」の愛称もあります。木々のざわめきを聴きながら傍らのベンチでくつろげば、街の異なる一面が味わえるかもしれません。注意しなければいけないのが「いらか道」は歩行者天国ではありません。車が入ってきますので要注意！

松林と大欅のある世田谷新町公園 桜新町2丁目 第1回選定



土地区画整理事業により昭和12年に開設された世田谷区第1号の公園です。松・欅の大木や水辺のある憩いの空間となっています。暑い夏には水辺では水遊びをする子供たちの姿を見ることができます。住宅街の中にあるせいかとても静かな公園です。午前中は小さいお子さんを遊ばせるお母様も多く、ここで公園デビューされた方も多いのでは。読書をしたり昼寝をしたり皆さん様々なスタイルで公園を楽しんでいました。

大正ロマンをのこす砧下浄水場ポンプ室 鎌田2丁目 第2回選定



今もなお大正の面影を残す世田谷区及び渋谷区に給水する砧下浄水所は、渋谷町水道として1923年に建設されました。砧下浄水場から駒沢給水所を経て給水された区域は、東京市豊多摩郡渋谷町（現在の東京都渋谷区）全域。大正時代初期から急激に人口が増えた渋谷町のライフラインとして、戦前～戦後の長らくにわたって役割を果たしました。建物の雰囲気駒沢給水塔に通じるものがあると思っていれば一緒に計画されて設計者も同じ中島博士だったからなんですね。

双子の給水塔の聳え立つ風景 弦巻2丁目 第1回選定



かつて、江戸川乱歩が怪人二十面相のアジトのモデルにしたという駒沢の給水塔。給水塔は2本ともギリシャ風のレトロな装飾が施されています。円筒形の建物の周囲には12本の付け柱が設置され、屋上には避雷針を設けたドームを中心に、周囲に12個の紫色の照明灯を配置するという凝った造り。北側の塔の側面には「滾々不盡（こんこんとしてつきず）」、南側の塔側面には「清冽如鑑（せいれつかがみのごとし）」の刻印が施されています。

最後になりましたが、せたがや地域風景資産とは

街の中には、私たちが暮らしていてほっとするような、生活や文化が感じられる街並みや、人々が行き交う商店街のにぎわいなど、そこに暮らす人々の心に共有され、みんなが誇りと愛着を持っている大切な風景がたくさんあります。「地域風景資産」とは、それらの風景を語る上で欠かすことのできない風景を特徴づけている大切な要素である建物や構造物、緑等です。つまり、区民の方が大切にしていきたいと考えている風景の中で、多くの人々が大切だと共感し、風景づくり活動の対象となるものが地域風景資産というわけです（世田谷区HPより）。次回あなたのご近所が選ばれるかも知れません。

それ行け!!
アサッチ

